

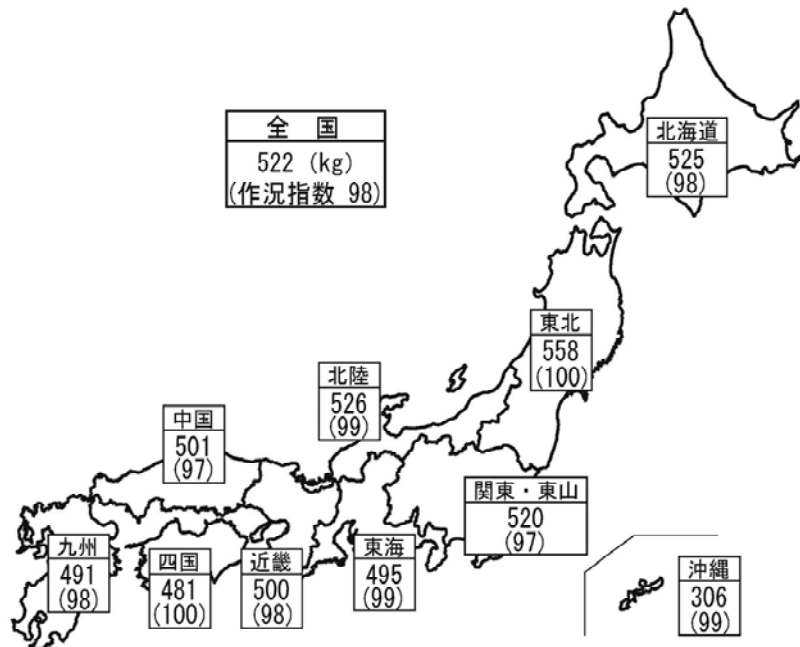
平成22年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

－ 水稻の10 a 当たり予想収量は522kg(作況指数98) の見込み －

【調査結果の概要】

- 1 平成22年産水稻の作付面積（子実用）は162万5,000haで、前年産並みとなった。また、主食用作付見込面積は158万haが見込まれる。
- 2 10月15日現在における水稻の作柄は、登熟はおおむね平年を上回って推移しているものの、全もみ数がおおむね平年を下回ったことに加え、関東・東山及び中国の一部地域で白未熟粒等が多く発生していることから、全国の10 a 当たり予想収量は522kg（作況指数98）が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は847万8,000 tが見込まれる。また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は823万9,000 tが見込まれる。

図 全国農業地域別10 a 当たり予想収量（10月15日現在）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む) から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。
- 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。
- この調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための資料

◎関連データ

累年統計表

水稻（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 穫 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考			作 況 指 数
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主 食 用)	10 a 当 たり 平 年 収 量	
	ha	kg	t	ha	t	kg	
昭.55	2 350 000	412	9 692 000	471	87
56	2 251 000	453	10 204 000	474	96
57	2 230 000	458	10 212 000	477	96
58	2 246 000	459	10 308 000	478	96
59	2 290 000	517	11 832 000	479	108
60	2 318 000	501	11 613 000	481	104
61	2 280 000	508	11 592 000	484	105
62	2 123 000	498	10 571 000	487	102
63	2 087 000	474	9 888 000	490	97
平.元	2 076 000	496	10 297 000	492	101
2	2 055 000	509	10 463 000	494	103
3	2 033 000	470	9 565 000	497	95
4	2 092 000	504	10 546 000	498	101
5	2 127 000	367	7 811 000	499	74
6	2 200 000	544	11 961 000	499	109
7	2 106 000	509	10 724 000	501	102
8	1 967 000	525	10 328 000	502	105
9	1 944 000	515	10 004 000	504	102
10	1 793 000	499	8 939 000	507	98
11	1 780 000	515	9 159 000	512	101
12	1 763 000	537	9 472 000	518	104
13	1 700 000	532	9 048 000	518	103
14	1 683 000	527	8 876 000	522	101
15	1 660 000	469	7 779 000	524	90
16	1 697 000	514	8 721 000	525	98
17	1 702 000	532	9 062 000	527	101
18	1 684 000	507	8 546 000	529	96
19	1 669 000	522	8 705 000	529	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	98

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：「…」は事実不詳又は調査を欠くもの。

【調査結果】

1 平成22年産水稻作付面積から、青刈り用の面積を除いた子実用作付面積は162万5,000haで、前年産並みとなった。

また、水稻作付面積から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた主食用作付見込面積は158万haで、前年産に比べて1万2,000haの減少が見込まれる。

2 10月15日現在における水稻の地域別の作柄は、北海道では、登熟はおおむね順調であるものの、全もみ数が少ないことから、10a当たり予想収量は525kg（作況指数98）が見込まれる。

東北では、全もみ数はおおむね平年を下回ったものの、登熟が太平洋側でおおむね順調に推移したことから、10a当たり予想収量は558kg（同100）が見込まれる。

関東・東山及び中国では、登熟期間の高温により、一部地域で白未熟粒等が多く発生していること等から、関東・東山は10a当たり予想収量520kg（同97）、中国は501kg（同97）が見込まれる。

その他の地域では、登熟はおおむね平年を上回って推移しているものの、全もみ数がおおむね平年を下回っていることから、北陸は10a当たり予想収量526kg（作況指数99）、東海は495kg（同99）、近畿は500kg（同98）、四国は481kg（同100）、九州は491kg（同98）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は522kg（同98）が見込まれる。

3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は847万8,000tが見込まれる。

また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は823万9,000tが見込まれる。

表 平成22年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在、全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積（子実用）			10a当たり 予想収量 ②	予想収穫量（子実用）			参 考			
	実 数 ①	前年産との比較			実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 （主食用） ⑤=④×②	10a当たり 平年収量 ⑥	作況指数 ⑦=②/⑥
		対 差	対 比			対 差	対 比				
全 国	1 625 000	4 000	100	522	8 478 000	12 000	100	1 580 000	8 239 000	530	98
北 海 道	114 600	200	100	525	601 700	58 300	111	112 400	590 100	535	98
東 北	419 300	2 600	101	558	2 339 000	17 000	101	400 600	2 236 000	557	100
北 陸	210 900	900	100	526	1 109 000	1 000	100	198 300	1 043 000	533	99
関東・東山	299 500	0	100	520	1 558 000	△ 33 000	98	293 500	1 527 000	534	97
東 海	104 400	△ 100	100	495	517 000	10 600	102	103 200	510 500	502	99
近 畿	110 500	0	100	500	552 000	200	100	109 000	544 800	509	98
中 国	117 500	600	101	501	588 800	△ 9 400	98	116 600	583 300	517	97
四 国	57 700	△ 400	99	481	277 300	△ 3 200	99	57 600	277 300	483	100
九 州	190 000	200	100	491	933 000	△ 27 700	97	188 400	925 100	502	98
沖 縄	914	△ 29	97	306	2 800	△ 90	97	910	2 780	309	99

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

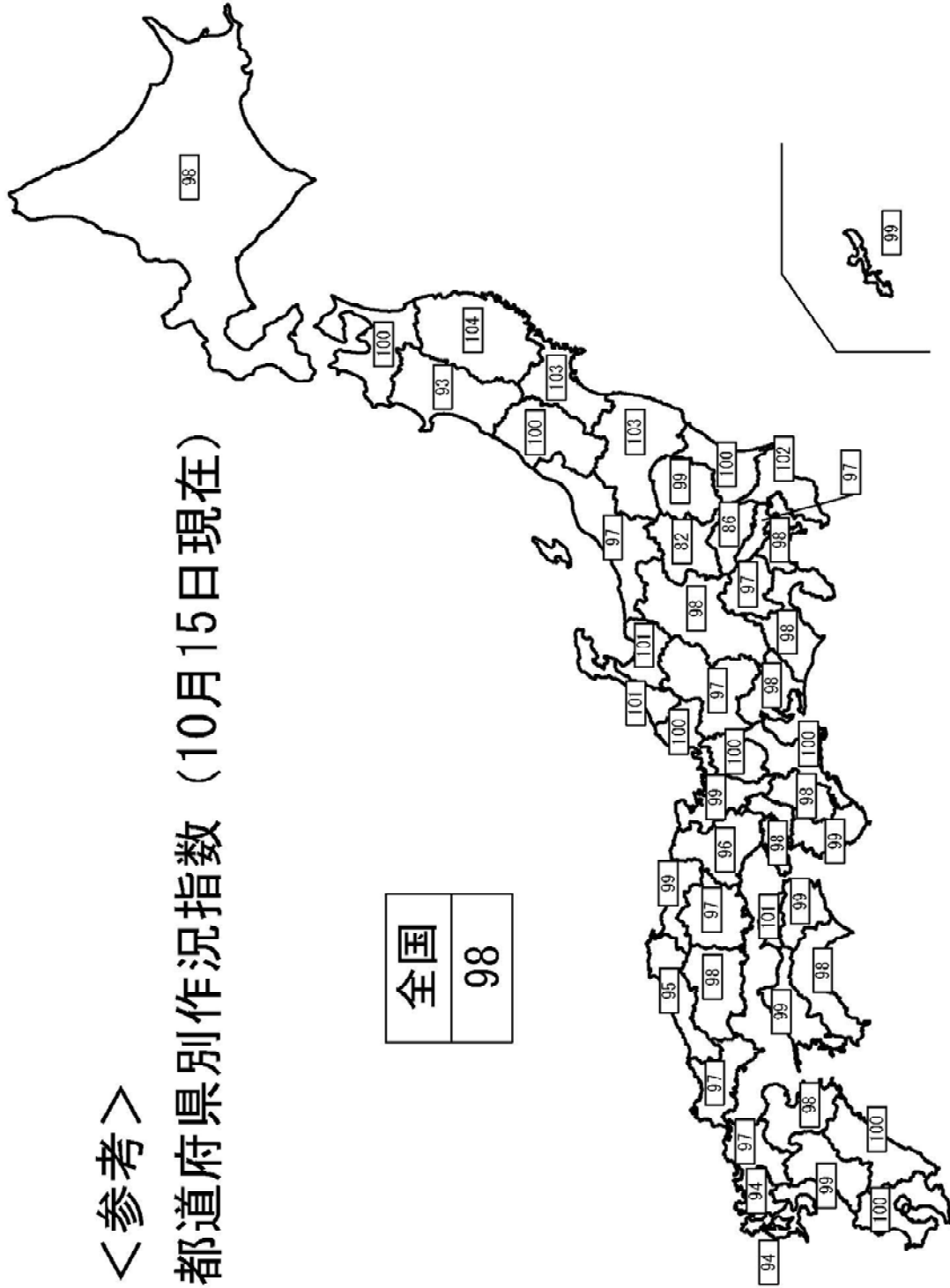
2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。

3 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

4 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

<参考>

都道府県別作況指数（10月15日現在）



【統計表】

【統計表一覧】

ページ

1	平成22年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）	6
2	平成22年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）	8
参考1	平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び 10a当たり収量内訳（全国農業地域別概数値）	9
参考2	平成22年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（10月15日現在）	10
参考3	収穫量調査の流れ	12
参考4	作況標本筆とは	13

【利用上の注意】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1,000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数 (下から)		3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中に用いた記号は以下のとおりである。

「…」：事実不詳又は調査を欠くもの。

「△」：負数又は減少したもの。

1 平成22年産水稻の作付面積及び

全 都 道 府 県	国 道 府 県	作付面積（子実用）			10aあたり 予想収量 ②	予想収穫量 ③=①×②
		実数 ①	前年産との比較			
			対差	対比		
		ha	ha	%	kg	t
全	国	1 625 000	4 000	100	522	8 478 000
北	海	114 600	200	100	525	601 700
青	森	49 400	300	101	578	285 500
岩	手	56 400	0	100	554	312 500
宮	城	73 400	100	100	545	400 000
秋	田	91 300	1 600	102	535	488 500
山	形	68 200	600	101	596	406 500
福	島	80 600	△ 100	100	553	445 700
茨	城	77 200	200	100	521	402 200
栃	木	63 900	600	101	535	341 900
群	馬	18 000	△ 200	99	406	73 100
埼	玉	35 700	0	100	426	152 100
千	葉	61 400	△ 600	99	542	332 800
東	京	179	△ 7	96	396	709
神	奈	3 220	0	100	479	15 400
新	潟	117 900	500	100	524	617 800
富	山	39 800	300	101	538	214 100
石	川	26 400	0	100	524	138 300
福	井	26 800	0	100	518	138 800
山	梨	5 290	△ 40	99	528	27 900
長	野	34 600	0	100	612	211 800
岐	阜	24 900	200	101	475	118 300
静	岡	17 500	△ 200	99	512	89 600
愛	知	31 000	△ 100	100	497	154 100
三	重	31 000	100	100	500	155 000
滋	賀	33 100	△ 100	100	516	170 800
京	都	15 800	0	100	504	79 600
大	阪	5 820	△ 20	100	487	28 300
兵	庫	38 800	100	100	486	188 600
奈	良	9 360	20	100	505	47 300
和	歌	7 620	△ 30	100	491	37 400
鳥	取	14 200	0	100	507	72 000
島	根	19 400	100	101	482	93 500
岡	山	33 800	100	100	509	172 000
広	島	26 400	400	102	511	134 900
山	口	23 900	100	100	487	116 400
徳	島	13 500	△ 200	99	471	63 600
〔	早期栽培	5 190	△ 140	97	453	23 500
	普通栽培	8 290	△ 120	99	482	40 000
香	川	15 300	100	101	502	76 800
愛	媛	15 800	200	101	495	78 200
高	知	13 100	△ 400	97	448	58 700
〔	早期栽培	7 690	△ 330	96	468	36 000
	普通栽培	5 450	△ 70	99	420	22 900
福	岡	39 400	0	100	486	191 500
佐	賀	27 800	900	103	493	137 100
長	崎	14 000	△ 100	99	449	62 900
熊	本	39 500	△ 200	99	512	202 200
大	分	24 400	△ 400	98	495	120 800
宮	崎	20 100	△ 100	100	496	99 700
〔	早期栽培	8 580	△ 180	98	479	41 100
	普通栽培	11 500	100	101	509	58 500
鹿	児	24 800	100	100	479	118 800
〔	早期栽培	5 890	90	102	430	25 300
	普通栽培	18 900	0	100	494	93 400
沖	縄	914	△ 29	97	306	2 800
〔	第一期稲	591	△ 88	87	375	2 220
	第二期稲	323	59	122

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。

予想収穫量（10月15日現在）

(子実用)		参 考				全 国 都道府県		
前年産との比較		主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=②×④	10a当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥			
対 差	対 比					t	%	ha
		12 000	100	1 580 000	8 239 000	530	98	1
		58 300	111	112 400	590 100	535	98	2
△		1 200	100	47 100	272 200	580	100	3
		11 300	104	54 800	303 600	533	104	4
		12 200	103	71 800	391 300	530	103	5
△		20 100	96	82 300	440 300	573	93	6
		5 000	101	65 300	389 200	594	100	7
		9 100	102	79 400	439 100	537	103	8
		300	100	75 400	392 800	520	100	9
△		1 800	99	61 900	331 200	539	99	10
△		17 900	80	17 300	70 200	494	82	11
△		25 300	86	35 400	150 800	493	86	12
		6 100	102	60 800	329 500	533	102	13
△		44	94	179	709	408	97	14
△		600	96	3 220	15 400	490	98	15
△		9 100	99	108 600	569 100	539	97	16
		2 000	101	38 100	205 000	535	101	17
		3 400	103	25 500	133 600	519	101	18
		4 800	104	26 100	135 200	517	100	19
△		100	100	5 260	27 800	547	97	20
		5 900	103	34 000	208 100	623	98	21
		4 700	104	24 700	117 300	488	97	22
		600	101	17 300	88 600	521	98	23
△		1 100	99	30 600	152 100	507	98	24
		6 400	104	30 500	152 500	500	100	25
		800	100	32 500	167 700	518	100	26
		2 800	104	15 700	79 100	511	99	27
△		600	98	5 820	28 300	495	98	28
△		2 200	99	38 100	185 200	504	96	29
△		400	99	9 330	47 100	513	98	30
△		200	99	7 620	37 400	495	99	31
		3 700	105	14 100	71 500	514	99	32
△		1 100	99	19 200	92 500	509	95	33
△		9 000	95	33 400	170 000	526	97	34
△		600	100	26 000	132 900	523	98	35
△		2 400	98	23 900	116 400	504	97	36
△		900	99	13 500	63 600	474	99	37
△		900	96	463	98	38
△		300	99	480	100	39
		1 400	102	15 300	76 800	499	101	40
		1 100	101	15 800	78 200	498	99	41
△		4 800	92	13 100	58 700	459	98	42
△		3 400	91	478	98	43
△		1 300	95	432	97	44
△		5 100	97	39 000	189 500	499	97	45
△		4 700	97	27 700	136 600	527	94	46
△		4 600	93	13 900	62 400	476	94	47
△		2 300	99	39 100	200 200	515	99	48
△		3 700	97	24 300	120 300	503	98	49
△		4 100	96	20 000	99 200	495	100	50
△		4 200	91	478	100	51
		100	100	509	100	52
△		3 200	97	24 400	116 900	479	100	53
△		1 700	94	439	98	54
△		1 500	98	492	100	55
△		90	97	910	2 780	309	99	56
△		160	93	370	101	57
		58

3 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

4 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

2 平成22年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

都道府県	刈 取 期						刈 取 済 面 積	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		割 合	対 平 年 差	
				対 平 年	対 前 年			
	月 日	月 日	月 日			%	ポ イ ント	
北 海 道	9. 10	9. 18	9. 25	11日早	17日早	100	1	
青 森	9. 16	9. 26	10. 6	9日早	16日早	100	9	
岩 手	9. 16	10. 1	10. 14	5日早	6日早	98	6	
宮 城	9. 19	9. 29	10. 9	3日早	4日早	99	3	
秋 田	9. 22	9. 30	10. 10	2日早	6日早	99	1	
山 形	9. 18	9. 29	10. 8	4日早	6日早	100	1	
福 島	9. 20	10. 7	…	4日早	5日早	86	3	
茨 城	8. 30	9. 8	9. 21	8日早	7日早	100	0	
栃 木	9. 8	9. 19	10. 15	7日早	5日早	95	2	
群 馬	9. 21	10. 11	…	6日早	6日早	60	8	
埼 玉	8. 29	9. 20	…	5日早	4日早	94	6	
千 葉	8. 20	9. 1	9. 11	5日早	3日早	100	0	
東 京	9. 26	10. 3	…	4日早	1日早	93	11	
神 奈 川	9. 15	10. 2	…	4日早	8日早	87	0	
新 潟	9. 9	9. 23	10. 4	1日早	1日早	100	0	
富 山	8. 28	9. 18	9. 28	並 み	1日早	100	0	
石 川	8. 27	9. 14	9. 28	1日早	1日早	100	0	
福 井	8. 22	9. 11	9. 26	1日遅	並 み	100	0	
山 梨	9. 13	9. 29	…	4日早	5日早	91	4	
長 野	9. 14	9. 28	…	4日早	6日早	91	△ 1	
岐 阜	8. 31	9. 30	…	3日早	3日早	81	4	
静 岡	8. 26	9. 20	…	4日早	2日早	90	2	
愛 知	8. 28	10. 3	…	1日早	1日早	72	0	
三 重	8. 22	9. 3	9. 17	並 み	1日遅	100	0	
滋 賀	9. 7	9. 15	9. 28	1日早	2日早	100	0	
京 都	9. 5	9. 22	…	2日早	3日早	92	0	
大 阪	9. 14	10. 11	…	1日早	1日早	73	4	
兵 庫	9. 6	9. 21	…	3日早	5日早	85	△ 5	
奈 良	9. 10	10. 15	…	2日遅	2日遅	51	△ 9	
和 歌 山	8. 27	9. 18	10. 11	1日早	並 み	98	1	
鳥 取	9. 5	9. 19	10. 7	3日早	4日早	99	1	
島 根	8. 28	9. 12	10. 3	5日早	8日早	99	0	
岡 山	9. 8	10. 3	…	1日早	2日早	65	△ 2	
広 島	9. 2	9. 22	10. 14	4日早	9日早	96	0	
山 口	9. 5	9. 22	10. 14	2日早	3日早	96	1	
徳 島	早期栽培	8. 16	8. 23	8. 31	3日遅	4日遅	100	0
	普通栽培	8. 22	9. 9	10. 8	1日早	2日早	98	0
香 川		8. 25	9. 30	…	1日早	3日早	91	4
愛 媛		8. 21	9. 21	10. 15	2日早	2日早	96	2
高 知	早期栽培	8. 5	8. 15	8. 25	4日遅	4日遅	100	0
	普通栽培	9. 19	10. 2	…	1日早	3日早	94	1
福 岡		8. 31	10. 2	…	2日早	2日早	88	1
佐 賀		8. 31	10. 9	…	1日遅	1日遅	66	△ 5
長 崎		8. 23	10. 12	…	2日遅	並 み	64	△ 10
熊 本		8. 17	10. 5	…	2日早	2日早	73	4
大 分		9. 18	10. 14	…	並 み	2日早	55	△ 3
宮 崎	早期栽培	8. 1	8. 7	8. 17	7日遅	8日遅	100	0
	普通栽培	9. 30	10. 13	…	1日早	並 み	61	△ 2
鹿 児 島	早期栽培	7. 31	8. 6	8. 16	3日遅	3日遅	100	0
	普通栽培	10. 5	10. 15	…	1日遅	1日遅	52	△ 9
沖 縄	第一期稲	6. 7	6. 23	7. 16	4日早	並 み	100	0
	第二期稲	…	…	…	…	…	0	△ 2

注：1 刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

2 「…」は10月15日現在において、その期日に達していないことを示す。

【参考1】

平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり収量内訳
(全国農業地域別概数値)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（【参考3】参照）。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりである。

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント

区分	合計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
全国農業地域								
全 国								
重量割合	本年値	100.0	81.3	13.2	2.3	1.6	1.0	0.6
	平均対差		7.2	△ 5.1	△ 1.0	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.3
北 海 道								
重量割合	本年値	100.0	85.0	10.3	1.8	1.3	1.0	0.6
	平均対差		7.2	△ 6.0	△ 0.8	△ 0.4	0.0	0.0
東 北								
重量割合	本年値	100.0	85.4	10.0	1.9	1.3	0.9	0.5
	平均対差		7.1	△ 5.8	△ 0.7	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.1
北 陸								
重量割合	本年値	100.0	83.3	12.2	1.9	1.3	0.8	0.5
	平均対差		4.7	△ 3.9	△ 0.4	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.1
関東・東山								
重量割合	本年値	100.0	73.4	19.2	3.1	2.3	1.3	0.7
	平均対差		3.8	△ 2.9	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2
東 海								
重量割合	本年値	100.0	83.6	11.5	2.2	1.2	0.8	0.7
	平均対差		6.5	△ 4.6	△ 0.9	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.2
近 畿								
重量割合	本年値	100.0	82.1	12.3	2.1	1.7	1.1	0.7
	平均対差		6.0	△ 4.2	△ 0.7	△ 0.6	△ 0.2	△ 0.3
中 国								
重量割合	本年値	100.0	84.5	11.0	1.8	1.3	0.8	0.6
	平均対差		4.9	△ 3.1	△ 0.9	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.2
四 国								
重量割合	本年値	100.0	76.8	16.0	3.2	2.0	1.3	0.7
	平均対差		10.7	△ 6.9	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.6	△ 0.4
九 州								
重量割合	本年値	100.0	76.6	16.1	3.1	2.1	1.3	0.8
	平均対差		16.7	△ 10.3	△ 2.9	△ 1.6	△ 1.1	△ 0.8

単位 : kg

区分	10a当たり 収量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量				
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm
		選別	選別	選別	選別	選別
全 国	522	424	493	505	514	519
北 海 道	525	446	500	510	517	522
東 北	558	477	532	543	550	555
北 陸	526	438	502	512	519	523
関東・東山	520	382	482	498	510	516
東 海	495	414	471	482	488	492
近 畿	500	411	472	483	491	497
中 国	501	423	478	487	494	498
四 国	481	369	446	462	471	478
九 州	491	376	455	470	481	487

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。
 2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
 3 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

【参考2】

平成22年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（10月15日現在）

都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数	都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数		
北海道 (98)	石狩	103	群馬 (82)	中毛	70		
	南空知	99		北毛	101		
	北空知	94		東毛	90		
	上川	97		埼玉 (86)	東部	87	
	留萌	98			西部	85	
	渡島	104			千葉 (102)	京葉	101
	檜山	103				九十九里	102
	後志	103		南房総		100	
	胆振	102		東京 (97)	東京	97	
	日高	101			神奈川 (98)	神奈川	98
	十勝	134				新潟 (97)	岩船
網走	113	下越北	99				
青森 (100)	青森	101	下越南	99			
	津軽	97	中越	95			
	南部・下北	105	魚沼	95			
		103	上越	97			
岩手 (104)	北上川上流	103	佐渡	97			
	北上川下流	104	富山 (101)	東部	100		
	東部	102		西部	101		
	北部	103		石川 (101)	加賀	101	
宮城 (103)	南部	99			能登	101	
	中部	100	福井 (100)		嶺北	100	
	北部	104		嶺南	100		
秋田 (93)	県北	94	山梨 (97)	山梨	97		
	県中	90		長野 (98)	東南	99	
	県南	95			中信	98	
山形 (100)	村山	101	岐阜 (97)	中北	97		
	最上	99		西南濃	97		
	置賜	102		中濃	96		
	庄内	99		東濃	99		
福島 (103)	中通り	103	静岡 (98)	飛騨	99		
	浜通り	104		東部	98		
	会津	102		中部	97		
茨城 (100)	北中部	102		西部	99		
		100	濃濃	東部	98		
		99		中部	97		
		100		西部	99		
栃木 (99)	北部	99	岐阜 (97)	西南濃	97		
	中部	99		中濃	96		
	南部	99		東濃	99		

平成22年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（10月15日現在）（つづき）

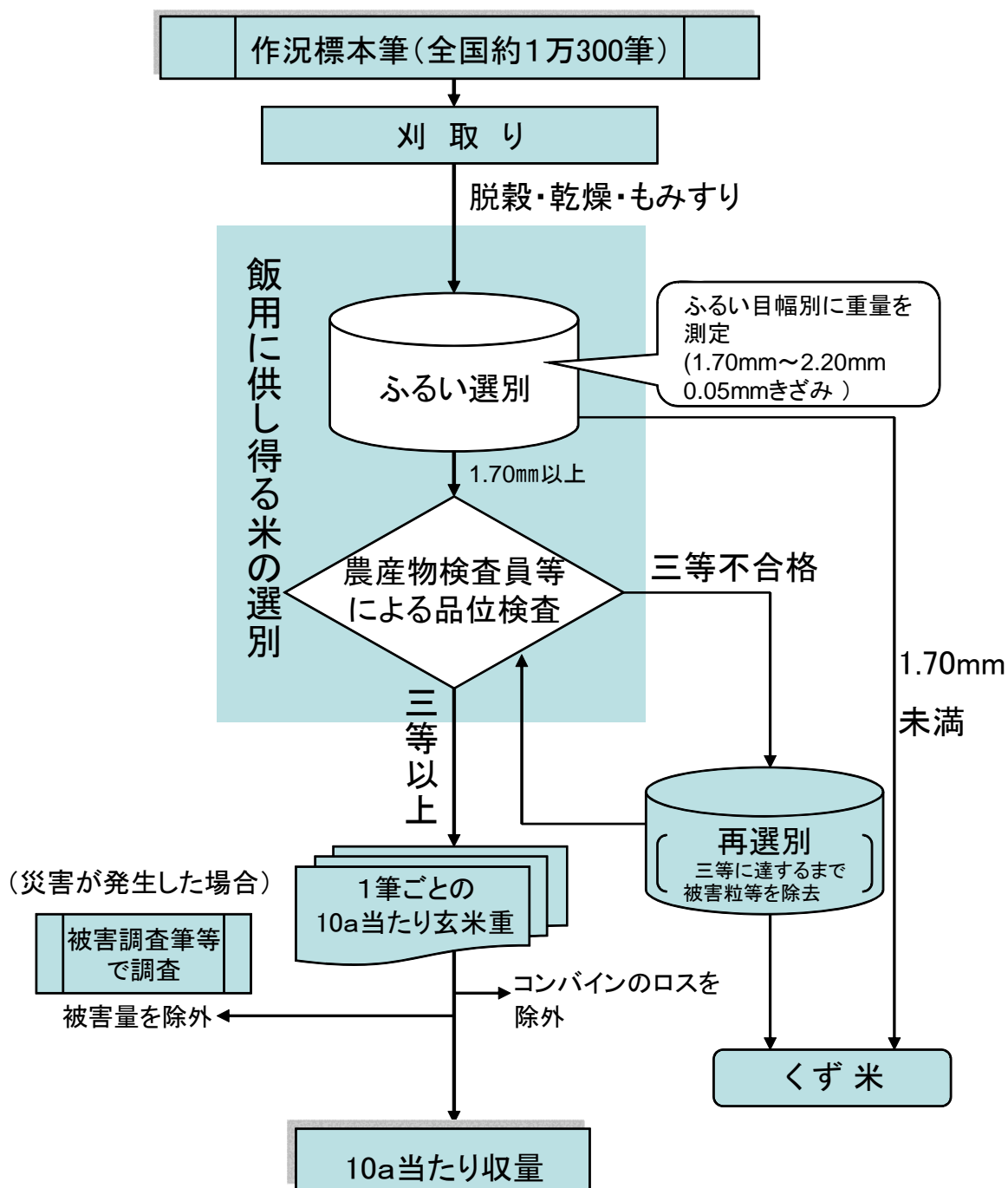
都道府県 （作況指数）	作柄表示地帯	作況指数	都道府県 （作況指数）	作柄表示地帯	作況指数
愛知 (98)	尾張	96	高知 (98)	中東部	100
	西三河	100		西部	94
	東三河	100			
三重 (100)	北勢	100	福岡 (97)	福岡	97
	中勢	100		北九州・豊前	100
	南勢	99		筑豊	97
	伊賀	99		北筑後	97
滋賀 (100)	湖南	100	佐賀 (94)	佐賀	94
	湖北	99		松浦	91
京都 (99)	南部	98	長崎 (94)	西彼	91
	北部	100		東南部	95
大阪 (98)	大阪	98		県北	93
				五島	83
兵庫 (96)	県南	96	壱岐・対馬	102	
	県北	99	熊本 (99)	県北	100
	淡路	99		阿蘇	99
		県南		99	
奈良 (98)	奈良	98	天草	90	
和歌山 (99)	和歌山	99	大分 (98)	北部	98
				湾岸	99
鳥取 (99)	東部	96		南部	98
	西部	100	日田	98	
島根 (95)	出雲	95	宮崎 (100)	広域沿海	99
	石見	95		広域霧島	102
岡山 (97)	南部	94		西北山間	99
	中北部	101	鹿児島 (100)	薩摩半島	99
広島 (98)	南部	96		出水薩摩	101
	北部	99		伊佐始良	100
山口 (97)	東部	99		大隅半島	100
	西部	96	熊毛・大島	97	
	長北	96	沖縄 (99)	沖縄諸島	102
徳島 (99)	北部	100		八重山	98
	南部	97			
香川 (101)	香川	101			
	愛媛 (99)	東予	101		
中予		97			
南予		100			

注：西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県）は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。なお、沖縄県の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

【参考3】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考4】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考4】

ふで
作況標本筆とは

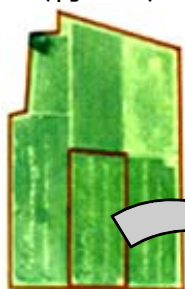
ふで
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。)は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万300筆)し、調査している。

都道府県内の全耕地
(母集団)



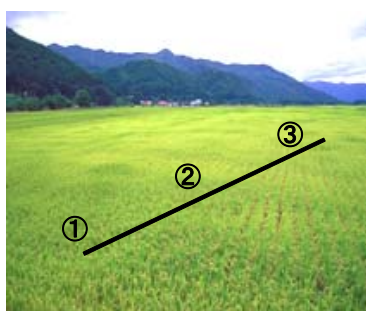
- 1 都道府県ごとの耕地を、約2 ha(北海道は約10ha)の区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排した、くじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(約2 ha)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行った。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：39,484単位区 巡回・見積り：1,728市町村

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：10,285筆 作況基準筆：615筆 巡回・見積り：1,728市町村

4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

(2) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。

(3) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査(10月15日現在)は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

10 その他

本調査についての確定値は、「平成22年産水陸稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定である。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省＞食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
農林水産省＞生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

米政策関連ページ：農林水産省＞食料＞米と麦
<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/jyukyu/komeseisaku/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：03（3502）5687

面積統計班

電話：03（6744）2045

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画課 広報普及班

電話：03（6744）2037